

【教員氏名】

串田 久治
 研究室:聖アンデレ館 7 階 713 号室
 メールアドレス:kushida@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義 プレゼンテーション グループワーク

【講義・演習概要】

「世界市民(コスモポリテース)」とは、国家や民族などの枠をこえて、普遍的な理性をもつ人間という意味で、今から二千数百年前のヘレニズム時代に生まれた人間観である。「今、なぜ世界市民を考えるのか」、この問いを解く鍵がチャイナタウンにあると考える。本講義では世界中に根を張る中国人のコミュニティー(チャイナタウン)を調べて、その功罪を考えながら、21 世紀の「世界市民」を考える。

なお、本講義を始めるに当たり、都合二回のオリエンテーションを行います。本講義を履修しようと思う人は、必ずいずれかのオリエンテーションに参加し、本講義の目的・講義の進め方などをしっかり理解し納得した方のみ履修することができます。オリエンテーションに参加せずに本講義に登録しても無効です。

【学習目標】

本講義は書物から学ぶものではない。問題意識を持って自分で調べ、調べたことを発表し、それについて議論し、人の意見に耳を傾け、そして自分の頭で考え、その考えを整理することが目的である。具体的には、最初に班分けをし、班で相談して対象国(地域)を決める。しばらくは個々人で調べて発表するが、班でパワーポイントにまとめて発表するので、思考能力・分析力・文章力・プレゼンテーション能力を高めることができる。

【講義計画】

- 第 1 回:オリエンテーション
- ・今、なぜ世界市民なのか?
- ・チャイナタウンとは?
- ・なぜ「リトル東京」なのか?
- 第 2 回:オリエンテーション
- ・今、なぜ世界市民なのか?
- ・チャイナタウンとは?
- ・なぜ「リトル東京」なのか?
- 第 3 回:世界のチャイナタウン(Ⅰ)
- 第 4 回:調査研究・発表とディスカッション。
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 5 回:調査研究・発表とディスカッション。
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 6 回:調査研究・発表とディスカッション。
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 7 回:調査研究・発表とディスカッション。
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 8 回:調査研究・発表とディスカッション。
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 9 回:調査研究・発表とディスカッション。
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 10 回:調査研究・発表とディスカッション。
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 11 回:調査研究・発表とディスカッション。
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 12 回:プレゼンテーション(Ⅰ)
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 13 回:プレゼンテーション(Ⅱ)
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 14 回:プレゼンテーション(Ⅲ)
- ただし、受講生数・ディスカッションの白熱度により変更あり。
- 第 15 回:総括

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。自分で調べて問題点を発見し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。また、本講義は班ごとに活動しますので、欠席・遅刻は認められません(欠席・遅刻は班の活動に支障をきたし、メンバーに多大な迷惑となります)。遅刻・欠席は講義の妨げとなりますので、講義を辞退していただく場合もあります。

毎回の小レポートと数回の中間レポートが義務づけられ、小レポートおよび中間レポートの不良者は最終レポート提出の資格を失いま

す。
 レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、出席するのが大前提なので出席点はありません。

【使用テキスト】

なし

【参考文献】

【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】

毎回 M-port で指示する。

【その他備考(担当教員用)】

【備考(管理者用)】